



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 47 No. 6
December 2022**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

黒川雄二先生 追悼文	103
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第6報）	107
第50回日本毒性学会学術年会のご案内（第3報）	109
2023年度日本毒性学会 学会賞候補者推薦要領	114
2023年度日本毒性学会 特別賞候補者推薦要領	115
2023年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）候補者推薦要領	116
2023年度日本毒性学会 学会貢献賞候補者推薦要領	117
2023年度日本毒性学会 奨励賞候補者推薦要領	118
第49回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	119
その他のお知らせ	120
毒性学ニュース索引（47巻） 一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について	



故 黒川 雄二 先生 略 歴

黒川雄二（くろかわ ゆうじ）享年 84
 生年月日：昭和 14 年（1939 年）9 月 20 日生
 出身地：宮城県仙台市出身
 御逝去：令和 4 年（2022 年）9 月 21 日

経歴・職歴

昭和 39 年 3 月：東北大学医学部医学科卒業
 昭和 40 年 3 月：慶応大学付属病院インターン終了
 昭和 44 年 3 月：東北大学医学部医学研究科終了
 昭和 44 年 4 月：東北大学抗酸菌病研究所研究生
 昭和 44 年 7 月：東北大学抗酸菌病研究所肺癌部門文部教官・助手
 昭和 50 年 10 月：米国国立癌研究所（NCI）病理部客員研究員
 昭和 53 年 1 月：国立衛生試験所安全性生物試験研究センター病理部腫瘍病理室室長
 昭和 62 年 4 月：国立衛生試験所安全性生物試験研究センター毒性部部長
 平成 7 年 4 月：国立衛生試験所（現国立医薬品食品衛生研究所）安全性生物試験研究センター長
 平成 13 年 3 月：同上勸奨退職
 平成 13 年 4 月：財団法人佐々木研究所所長
 平成 13 年 10 月：財団法人佐々木研究所理事長
 平成 18-22 年度：財団法人佐々木研究所所長兼務
 平成 24 年 4 月：公益財団法人佐々木研究所理事長，医療担当常務理事・附属杏雲堂病院院長兼務
 平成 26 年 6 月：公益財団法人佐々木研究所理事長
 平成 28 年 11 月：同上辞職

免許・資格

医師免許（第 187646 号）
 東北大学医学部医学研究科 医学博士（第 566 号）

所属学会

日本癌学会 名誉会員
 日本毒性学会 理事長（平成 8-10 年度）・評議員，名誉会員・名誉トキシコロジスト
 日本食品衛生学会 評議員，名誉会員

班研究等

厚生省がん研究助成金「変異原性を持たない物質による動物発がんとその評価」
 班班長（昭和 62-63 年度）
 「非変異原性発がん物質の発がん機構における活性酸素の関与に関する研究」
 班班長（平成 1-2 年度）
 厚生科学研究費「ダイオキシンのリスクアセスメントに関する研究」
 班班長（平成 7-9 年度）
 「医薬品規制ハーモナイゼーション国際共同研究 ICH 安全性分野」
 主任研究者（平成 7-12 年度）
 「動物による発がん性評価のための新手法の確立とその意義に関する研究」
 班班長（平成 8-13 年度）

賞罰

瑞宝小綬章受章（平成 21 年 11 月）

黒川雄二先生を悼む

黒川雄二先生が9月21日にご入寂された訃報を日本毒性学会事務局からのメールで知り、早い旅立ちに驚きました。しばらくお目にかかっていませんでしたが、ご健康に過ごされていると思っていました。

黒川雄二先生とは日本毒性学会（旧日本毒科学会、日本トキシコロジー学会）で、2期理事をご一緒させて頂きました。1996年に黒川先生が日本毒科学会の理事長に就任されました時に、編集委員長の大役を仰せつかりました。小生は選出理事ではなく、1期目は先生の指名理事として理事会に入りました。その前後に、前理事長の福田英臣先生と鎌滝哲也編集委員長から、北海道大学薬学部にある編集部を本州に移動させたいと聞いていました。しかし、移動先が東京ではなく神戸（神戸学院大学薬学部）を選ばれた経緯を知らないまま引き受けました。黒川先生に初めてお目にかかった場所は定かではありませんが、柔和な包容力があり食通でもいらした先生のイメージは全く変わっていません。

編集部は、大学事務局にお願いしてパートで木村俊子さんを紹介頂き、印刷所は美術印刷で定評のある地元の福田印刷（担当：安岡重明さん）への依頼などを理事会で承認して頂きスタートしました。また、編集部はお金の出入のある部門でもあり、編集委員長はこの期から総務委員会に参加しました。学会の管理・運営を支える事務局は、文京区弥生の学会センタービルで中西クミさんが取り仕切っておられ、各種手続きなどお世話になりました。この事務局機能をフルに利用されて、先生は学会の管理・運営を再構築されて現在の日本毒性学会の管理・運営などの基礎を築かれたと認識しています。

さて、黒川雄二先生は多くの企画案をお持ちでした。編集委員会では「JTSのA4版への変更」をはじめ「学会名改称（日本毒科学会から日本トキシコロジー学会）」や、「ロゴの変更」などに伴う「表紙のデザイン変更」、「英文と邦文用の混在した投稿規程の整理と改正」、「学会情報」冊子の「JTSへの挟みこみ」、「投稿料改定」などに取り組みました。懸案の「英文校閲」は、NHKの英会話番組に関わっておられた故ダイソンさんを、山添康先生の紹介でお願い出来まし

た。邦文の「学会情報」の郵送価格の扱いを郵便局から指摘され、安岡さんが交渉して「JTS誌への脱着可能な挟み込み」で、郵送料金の加算などは避けられました。

「田邊賞」は、長年JTSの編集をして下さった田邊恒義先生への顕彰で、掲載された論文からの選考などが検討されていました。先生のご逝去後、ご遺族の寄付もあり「田邊賞」は学会の初めての「賞」として誕生しました。

黒川雄二先生は、常々「この学会は産官学のバランスがうまくいっている」とお話しでした。1970年代まで、非臨床試験の「一般薬理・毒性試験」は製薬企業や民間の実験動物研究機関以外に、獣医学・医学・薬学の大学の薬理学（薬物学、薬品作用学）や病理学をはじめ毒物学（裁判化学）、解剖学、生理学、生化学などの研究室の委託試験研究となっていた事にも因っていると、受け止めています。また、非臨床試験などに関する研究会が本学会の源になっていた事の裏付でしょう。JTSの「Supplement」は、非臨床試験の結果の投稿の場にもなっていて、学会収入に寄与していましたが、新薬申請時の「専門誌への投稿要件」がなくなり、収入の減少になりました。

「認定トキシコロジスト」制度では、「グランドファーザー」の立ち上げから参加し、資格基準など難しい問題もありましたが、黒川先生は制度意義を明快に説明されていました。小生も「グランドファーザー」の一人ですが、因らずも先生のご逝去された今年、更新試験を辞退していました。

最後に、先生が期待されていた学会の「ホームページ」は、3期目理事の時に（長尾拓理事長）、相談した安岡さんの試作画面から立ち上がりました。多くの経験の機会を下された黒川雄二先生に改めて感謝し、ご冥福をお祈りいたします（合掌）。

2022年11月7日

神戸学院大学 名誉教授
仮家 公夫

黒川雄二先生ご逝去の報に接して

日本毒性学会名誉会員の黒川雄二先生におかれましては、令和4年9月21日、83歳をお迎えになられた翌日にご逝去されました。ご指導を受けた先生方もたくさんおられることと存じますが、門下生の一人として、僭越ではございますが、追悼文を記し、謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

先生は1987年に国立衛生試験所（現在の国立医薬品食品衛生研究所）病理部より異動され、毒性部長に就任されました。私はその前年に毒性部に入所、私の1年前に高木篤也先生（元毒性部動物管理室長）、1年後に佐井君江先生（医薬安全科学部室長）が入所され、また、長谷川隆一先生（元医薬安全科学部部長）が大阪支所から毒性部に異動されました。黒川先生は病理部室長時代に厚生省がん研究助成金研究の中で臭素酸カリウムの発がん性を明らかにされました。その発がんメカニズムに酸化ストレスの関与が示唆されていて、先生の研究的興味が注がれました。そのような中、当時は一般毒性研究が主であった毒性部に移られて、先生としてはどうしても臭素酸カリウムの発がん研究を続けたいとの思いがあり、長谷川先生、高木先生、佐井先生と私にお声がけいただき、毒性部内にチーム黒川が結成されました。

当時の国立衛試では今とは異なり、修士卒の学生が入所するのが一般的でしたので、私も含めて高木、佐井両先生も当時は博士の学位を持っておりませんでした。従って、このチーム黒川はまさに大学の研究室の雰囲気、大教授の黒川先生に准教授で長谷川先生、そこに博士課程後期学生3人が在籍しているようなものだったと思います。当時の黒川教授の印象は何しろ「怖い」の一言で、呼び出された時には溜息つきながら、恐る恐る先生のお部屋に伺いました。案の定、ご機嫌は良くなく、テーブルには昨日お渡しした書きかけの論文が放置されている。そうですね、A4用紙で2か所ケアレミスがあると内容は直してもらえません。先生曰く「俺にスペルチェックさせるつもりか」。本当に申し訳ございませんでした。そんなところの研究室でもある大教授と院生の関係の中で、先生が病理部からお持ちになったHPLC-ECDを使って、深夜になるまで酸化DNA損傷の

8-hydroxydeoxyguanosineを測定していた頃が本当に懐かしく思い出されます。英文の数行すら書くのもままならなかった私たちが本当に手取り足取り教えていただき、研究のイロハからご指導いただきました。おかげさまで3人が博士の学位を取った頃、先生は1995年から安全性生物試験研究センターのセンター長にご就任され、長谷川先生、佐井先生も別の部に異動、高木先生は動物管理室、私も病理部に移り、事実上、チーム黒川は発展的解散となりました。

先生はその後、2001年から佐々木研究所の理事長となり、お会いする機会も極端に少なくなりました。そのような時、先生からメールが届き、たまにはみんなで集まろうとのお誘いがありました。先生は親睦会の名前を「ポタの会」としたいと言われ、ポタって、カリウムの方じゃないかとの意見もある中、もちろん皆、賛成して、年に1回の頻度で親睦会を行いました。その時の先生は怖い大教授の面影はなく、とても楽しそうににこにこ笑いながらポタの昔話をされていたのがとても印象的でした。先生はもともと大勢で集まるのがお嫌いでしたので、ポタの会は先生にとっても懐かしい教え子たちとの心許せる時間となっていただけかと思っています。

ポタの会は数回の開催後、先生のご体調などもあって、幾度も延期となり、ついに再開の機会もありません。本来であれば、我々院生の方からもっと積極的にご体調に合わせてお会いする機会を設けるべきであったと後悔の念に堪えません。院生3人の中でポタの研究を継続しているのは私一人となってしまいました。佐々木研究所の理事長室にポタの論文別刷をお届けに上がった時の本当に嬉しそうにされていた様子が今でも目に浮かびます。追悼文を記しながら、これからはそのような機会もないのだと無性に寂しく感じます。先生から賜りました数々の温情あるご指導に深く感謝申し上げると共に、心より追悼の意を表します。

ヤマザキ動物看護大学大学院 動物看護学研究科 教授
梅村 隆志

名誉会員 黒川雄二 先生のご逝去を悼む

日本毒性学会名誉会員、黒川雄二先生の訃報に接し、謹んで哀悼の意を表します。

黒川雄二先生は、長年の日本毒性学会 (JSOT) の会員であるとともに、国立医薬品食品衛生研究所の毒性部長、安全性生物試験研究センター長として、発癌研究、特に非変異原性発癌物質の研究、医薬品規制ハーモナイゼーション国際共同研究 (ICH 安全性分野)、日米、日韓 (KFDA) 連携を始め、毒性学分野における国際的学術交流の実績を基に、JSOT の理事、理事長を歴任され、学術レベル、及び、学会としての国際化レベルの向上の強力な推進力となって来られました。

JSOT 理事長を 1996 年～1999 年の間務められ、この任期中、毒性学の普及促進と、国内外における日本の毒性学の地位向上、地位確保に貢献すべく、日本毒科学会から日本トキシコロジー学会 (The Japanese Society of Toxicology, JST) への名称変更、及び、米国のトキシコロジスト認定制度である DABT 等を参考としてのトキシコロジスト認定制度の発足が完了しました。また、学会設立当初からの製薬協の多方面に渡る貢献度を考慮し、理事長在任中の 1998 年に製薬企業研究者による初の学術年会の開催に大きく貢献されました。加えて、2000 年に第一回が開催された生涯教育講習会 (Continuing Education Course) の発足にも大きく貢献されました。国際トキシコロジー学連盟副会長 (IUTOX, 2nd Vice President) を、佐藤哲男先生に次いで、2001～2002 の間務められ、その後、井上達先生、私、熊谷嘉人先生、広瀬明彦先生へとつながる IUTOX に対する日本毒性学会の連携活動の基礎固めに貢献されました。これらにより、2021 年に日本毒性学会の佐藤哲男賞国際貢献賞を受賞されたことは、記憶に新しい慶事でありました。

私的には、大学院を修了し 1985 年に癌研究振興財団のリサーチレジデントとして国立衛生試験所 (現国立医薬品食品衛生研究所) 安全性生物試験研究セ

ンターの林裕造先生の病理部にお世話になった時が、間近で黒川先生とお会いした最初でした。前川明彦室長の下で林発癌研究班の一環としてラット甲状腺 2 段階発癌実験を松岡千明氏と共に毎日動物舎に入って進めていたとき、お隣の「黒川室」では、臭素酸カリの研究が展開されていました。その後、東京医科歯科大学・病理学教室に戻り、関連病院に週一回お手伝いに出される中にご近所の佐々木研究所附属杏雲堂病院がありました。私が再び 1997 年より国立衛研にお世話になった時には、黒川先生はセンター長であられ、その際、記憶に残る大きな出来事としてはダイオキシンの経口曝露毒性試験を行える Chemo-SPF-ダブルバリアの実験施設の整備が挙げられます。黒川センター長が先頭に立たれ国立施設としては稀な新棟「特殊実験棟 (通称 26 号館)」の建設を成し遂げられました。もう一つは、医学的に興味深い「4 年毎の片頭痛」です。なぜか 4 年毎のことでお辛そうでした。2001 年に黒川先生が佐々木研究所の理事長に就任されてからも、時折、佐々木研セミナーに呼んでいただいたり、病院運営のご苦勞話を伺ったりする機会を得ておりました。腎がんが見つかり、膵転移に対する難しい手術も乗り越えられ、安定した療養をされておられ、2021 年に日本毒性学会の佐藤哲男賞国際貢献賞を受賞された際にもお元気であられたところ、急逝のお知らせを受け、驚いた次第です。

日本の毒性学の学術、行政を中心とした実践における指導的役割、それらの国際展開に於ける多大な功績はまことに顕著であり、ここに衷心よりご冥福をお祈り申し上の次第です。

2022 年 11 月 20 日

国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員 名誉職員
菅野 純

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第6報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

〔第26回日本毒性学会基礎教育講習会〕

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。受講者の皆様には4月下旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2023年4月下旬～認定トキシコロジスト試験前まで

2. 形 式

オンデマンド動画配信

3. 申込

1) 申込期間

2023年1月23日（月）～2022年3月31日（木）

2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

登録後、期限内に次項の要領で受講料を納入下さい。

受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。

3) 納入方法

ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：みずほ銀行

支店：麹町支店（021）

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

*振込手数料はご負担ください。

*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名（会員の方は会員番号）、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

4) 受講料

一般会員：25,000円 学生会員：5,000円

非会員：30,000円 学生非会員：8,000円

認定トキシコロジスト：20,000円

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内前に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則として致いたしませんのでご了承下さい。

5) その他

*受講修了者には受講証明書を発行します。

〔第24回日本毒性学会生涯教育講習会〕

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には6月中旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2023年学術年会開催時期

2. 形式

オンデマンド動画配信

3. プログラム (仮)

- 1) トピックス SOT2023 CE コースから：2題。
演題・演者選定中
- 2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー：
“環境・医薬品・化学品等，それぞれの領域に
おける代替法の最前線”

講師選定中

4. 参加費

会 員	5,000 円
非会員	7,000 円
認定トキシコロジスト	3,000 円

「第 26 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため，質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については，毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は，願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. スケジュール

2023 年 秋

2. 会 場 (予定)

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000 円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2003 年，2008 年，2013 年，2018 年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は 2023 年 4 月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース，学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は 6 月上旬，締め切りは 8 月中旬を予定しています。なお，可能な限り，2018 年 3 月発刊の「第 3 版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他，詳細につきましては，2022 年 6 月にご案内しております。

第 50 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 3 報)

(年会ホームページ : <https://jsot2023.jp>)

1. 会 期

2023 年 6 月 19 日 (月) ~ 6 月 21 日 (水)

2. 会 場

パシフィコ横浜 会議センター

〒 220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

Phone : 045-221-2155 (総合案内)

URL : <https://www.pacifico.co.jp>

・みなとみらい線 みなとみらい駅より徒歩 5 分

・JR 京浜東北線・横浜市営地下鉄 桜木町駅より徒歩 12 分

3. テーマ

毒性学ってなんだ? -そしてその先へ-

4. 年会長

北嶋 聡

(国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部)

5. 企画委員会

(敬称略)

安西 尚彦 (千葉大学)

石塚真由美 (北海道大学)

上原 孝 (岡山大学)

小川久美子 (国立医薬品食品衛生研究所)

小椋 康光 (千葉大学)

小野 竜一 (国立医薬品食品衛生研究所)

諫田 泰成 (国立医薬品食品衛生研究所)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

熊谷 嘉人 (筑波大学)

栗形麻樹子 (国立医薬品食品衛生研究所)

齋藤 文代 (岡山理科大学)

渋谷 淳 (東京農工大学)

杉山 圭一 (国立医薬品食品衛生研究所)

鈴木 睦 (協和キリン (株))

高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研究所)

種村健太郎 (東北大学)

角崎 英志 ((株) 新日本科学)

平林 容子 (国立医薬品食品衛生研究所)

広瀬 明彦 ((一財) 化学物質評価研究機構)

黄 基旭 (東北医科薬科大学)

堀井 郁夫 (ファイザー (株))

増村 健一 (国立医薬品食品衛生研究所)

宮脇 出 (住友ファーマ (株))

務台 衛 ((株) LSIM 安全科学研究所)

森 和彦 (第一三共 RD ノバーレ (株))

山本 千夏 (東邦大学)

吉田 武美 ((公社) 薬剤師認定制度認証機構)

吉成 浩一 (静岡県立大学)

(五十音順)

6. 特別企画 (予定, 仮題, 敬称略, 順不同)

1) 年会長招待講演

(1) 「Discovery and Development of COVID-19 Vaccines and Therapeutics」

Nasir Khan (Pfizer Inc.)

2) 特別講演

(1) 「睡眠の謎に挑む: 『眠気』の正体を求めて」

柳沢正史 (筑波大学 国際統合睡眠医学科学研究機構)

(2) 「脳と AI の協創で拓かれる世界 (仮題)」

池谷裕二 (東京大学大学院 薬学系研究科)

(3) 「(TBD)」

北野宏明 (特定非営利活動法人 システム・バイオロジー研究機構)

(4) 「染色体工学技術による毒性研究最前線」

香月康宏 (鳥取大学染色体工学研究センター)

(5) 「アカデミアからの創薬ナラティブ」

萩原正敏 (京都大学大学院医学研究科 生体構造医学講座)

(6) 「モロシヌスマウスの遙かな旅」

城石俊彦 (理化学研究所バイオリソース研究センター)

(7) 「日本の有機フッ素化合物による環境汚染とその毒性基本情報」

小泉昭夫 (公益社団法人 京都保健会 社会健康医学福祉研究所)

(8) 「細胞外小胞の医療応用の期待と課題: 毒性学の観点からの考察」

落谷孝広 (東京医科大学 医学総合研究所 分子細胞治療研究部門)

3) 教育講演

- (1) 「ヒト性染色体と環境」
深見真紀（国立成育医療研究センター 分子内
分泌研究部）
- (2) 「NRF2 活性化がん：古き実験動物モデルから
診断と治療に向けて」
田口恵子（東北大学大学院医学系研究科 医化学分野）

4) シンポジウム（2022年11月時点）

- (1) 医薬品開発におけるバイオマーカー戦略の現
状と展望
- (2) 毒性オミクスにおけるエピジェネティクス情
報を加えた人工知能解析（仮題）
- (3) 生体金属部会シンポジウム ～金属毒性学の
50年史とこれからの50年における期待～
- (4) ミクログリア毒性学
- (5) Next Generation Risk Assessment (NGRA) に
おける New Approach Methodologies (NAMs)
開発の現状、課題、展望
- (6) 医薬品製剤の Extractables と Leachables の
安全性評価の進展
- (7) 医薬品毒性機序研究部会シンポジウム ～毒性
機序研究を拓く先端技術の現状と展望～
- (8) 化学物質のアダクト形成を介した新規毒性機
構の解明とその検出
- (9) 心臓の頑健性・破綻の制御と毒性評価への展開
- (10) 製薬業界における DX の実践～毒性研究/
非臨床領域編
- (11) 発生発達期暴露による神経行動毒性の新た
な課題
- (12) 法中毒学の教育・研究における新たな潮流
と毒性学との連携
- (13) 細胞周期制御の破綻に起因する発がん研究
の展開
- (14) 医薬品における雄性生殖を介した発生毒性
リスクの考え方
- (15) 医薬品開発における非臨床試験の現状と課
題：製薬企業と CRO の立場から考える
- (16) (本部企画・連携) 【SOT-JSOT 合同シンポ
ジウム】 (TBD)
- (17) ゲノム不安定性をみる～遺伝毒性研究のホッ
トトピック～
- (18) 毒性研究・安全性評価におけるデータサイ
エンスの活用と今後の展望
- (19) (本部企画・連携) 【日本癌学会合同シンポ
ジウム】 (TBD)
- (20) (本部企画・連携) 【日本免疫毒性学会合同シン
ポジウム】免疫毒性学ってナンだ？ - “働く
免疫細胞” に起こる毒性影響、活性化と抑制 -
- (21) (本部企画・連携) 【日本薬理学会合同シンポ
ジウム】薬物副作用に関わる性差
- (22) (本部企画・連携) 【日本毒性病理学会合同シ
ンポジウム】日本毒性病理学会からのトピッ
ク：病理学的観点から見た化合物による毒
性反応の種差（仮題）
- (23) シグナル伝達相互作用による発生制御機構
とその破綻による発生毒性の予測
- (24) (本部企画・学術) 【次世代研究セミナー】電
磁波技術の毒性学への応用－見えないもの
を見る挑戦－
- (25) 解毒の種差を探る
- (26) フッ素の基礎化学と医薬品開発における現状
と展望及び多フッ素化有機化合物の毒性学
- (27) がん原性試験の新しい枠組み～WoEアプロー
チの実装
- (28) (本部企画・企画戦略) 【企画戦略シンポジ
ウム】学際的毒性学を目指して：医療医学
系への拡大
- (29) (本部企画・学術) 【キャリア形成支援プログ
ラム】 (TBD)
- (30) 生体金属部会シンポジウム ～金属による生
殖毒性～
- (31) エピジェネティクス研究の新機軸～モデル
動物からヒトまで～
- (32) エクソソーム研究の最前線
- (33) Microphysiological system (MPS) 技術の現
状と課題：医薬品・化学品開発と規制への応
用に向けて
- (34) 子供の脳の毒性学：外来性分子が引き起こ
す高次脳機能の変調の機構解明（仮題）
- (35) (本部企画・連携) 【日本中毒学会合同シンポ
ジウム】 (TBD)
- (36) 途上国で「今」起きている環境汚染とそ
の毒性影響

- (公募1) オルガノイドの化学物質・食品応用への安全性評価と将来
- (公募2) 抗ウイルス薬の安全性研究とその展望
- (公募3) 胆汁排泄, 胆汁うっ滞評価の新機軸 - 胆汁排泄, 胆汁うっ滞のヒト予測向上を求めて
- (公募4) New modality に対する初期毒性評価戦略

6) ワークショップ

- (1) 獣医学分野における毒性学教育 (仮題)
- (2) Target Safety Assessment (TSA) - 医薬品候補品の効率的な創出を目指して
- (3) シン・毒性質問箱～(大) 動物種の選択について考える

7) イブニングセミナー

- (1) 毒性オミクスフォーラム (仮題)

8) 第20回市民公開セミナー

テーマ: トクホってなんだ?

—いわゆる健康食品との違い—

日時: 2023年6月18日(日)

10:30～12:30 (開場10:00) (予定)

会場: パシフィコ横浜 会議センター 4F 413 (予定)

後援: 一般社団法人 横浜市薬剤師会

司会: 北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部 部長)

プログラム (予定):

- (1) 人生100年時代を見据えたトクホの活用 ～トクホの過去・現在・未来～
受田 浩之 (高知大学理事・副学長, 内閣府消費者委員会委員長代理)
- (2) いわゆる健康食品の安全性 ～なぜ, 健康被害が起こるのか～
千葉 剛 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長)
- (3) 食品衛生法に基づく指定成分制度
今井 美津子 (厚生労働省 医薬・生活衛生局 食品基準審査課 新開発食品保健対策室 室長)

7. 一般講演演題募集

- 1) 2023年1月から受け付ける予定です。口演及びポスターでの発表を予定しています。発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会ホームページ (<http://www.jsot.jp>) にて入会の手続きをお願いします。

◇ポスターとスライド作成は、原則英語となります。(口頭発表及び討論は日本語で構いません。英語による発表・議論も可です)

※本年会は現地開催を予定しております。ご発表は現地会場をお願いします。

- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記8に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会ホームページから登録して下さい。

- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて10～15分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上、決まり次第 主発表者へE-mailにてお知らせいたしますので、ホームページなどでご確認下さい。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。

◆ポスター発表 質疑・応答 (コアタイム)

- 6月19日(月) 17:30～18:15
- 6月20日(火) 16:55～17:40
- 6月21日(水) 13:15～14:00

4) 優秀研究発表賞応募演題

2023年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を第1日目(6月19日(月))に行っていただきます。受賞者の発表は、第2日目(6月20日(火))夕方に、授賞式は情報交換会(無料招待)において、状況によりましては、第3日目(6月21日(水))午前中に行う予定です。授賞式等詳細は、年会ホームページにて追ってご案内いたします。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

5) 学生ポスター発表賞応募演題

学術年会(2023年6月19日(月))の時点で学生(大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く)のポスター発表(筆頭著者)の方を対象とします。応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第1日目(6月19日(月))に行っていただきます。受賞者の発表は、第2日目(6月20日(火))夕方に、授賞式は情報交換会(無料招待)において、状況によりましては、第3日目(6月21日(水))午前中に行う予定です。授賞式等詳細は、年会ホームページにて追ってご案内いたします。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

※上記、4)、5)の賞への重複申請は不可とします。

8. 演題登録要領

<演題登録システムは現在準備中です(2022年11月現在)>

詳細は今後、年会ホームページに掲載してまいります。

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみの予定です。締め切り間際は、アクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要領と年会ホームページを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会ホームページにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めていただく予定です。演題登録は発表者本人が行って下さい。

発表者個人情報登録→一般演題登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

◇要旨作成要領：

日本語または英語の要旨のご提出をお願いしております。

要旨の文字数は日本語要旨は800字以内、英語要旨は1600字以内(いずれもスペース含む)の予定です。上記文字数を超えると登録できませんの

で、御注意下さい。なお、本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れないで下さい。

9. 参加登録および参加費

事前参加申込開始日：

2023年1月上旬(予定)

事前参加申込締切日：

2023年4月19日(水)(予定)

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と情報交換会費は「課税(消費税込)」となります。

カテゴリー	事前参加登録	当日参加登録
会員	12,000円	14,000円
学生会員	3,000円	4,000円
関連学会員 ¹⁾	13,000円	15,000円
非会員	15,000円	17,000円
VODのみ	17,000円	17,000円
情報交換会費(一般)	8,000円	10,000円
情報交換会費(学生)	2,000円	2,000円

※VODとは「ビデオオンデマンド」の略で、インターネットに接続しているスマートフォンやパソコンなどの端末で、随時視聴できるサービスです。

現地参加された方、及び、VODのみを申し込んだ方は、年会終了後1ヶ月間(予定)は、追加費用無く、VODをご利用いただけます。

*¹⁾は次の学会会員の方を予定しております。

◇共催学会：

(一社)日本中毒学会

(一社)日本毒性病理学会

日本免疫毒性学会

(公社)日本薬理学会

米国SOT(Society of Toxicology)

韓国SOT(Korean Society of Toxicology)

◇協賛学会(2022年11月時点)

(一社)日本安全性試験受託研究機関協議会

日本安全性薬理研究会

(一社) 日本環境化学会
 日本環境毒性学会
 (一社) 日本衛生学会
 日本環境変異原ゲノム学会
 (公社) 日本産業衛生学会
 (公社) 日本実験動物学会
 (公社) 日本獣医学会
 (一社) 日本生理学会
 日本先天異常学会
 (公社) 日本動物学会
 (一社) 日本発生生物学会
 環境ホルモン学会 (日本内分泌攪乱化学物質学会)
 (公社) 日本薬学会
 (一社) 日本薬物動態学会
 日本食品化学学会
 比較眼科学会

連絡事務局
 〒 106-0041 東京都港区麻布台 1-11-9
 株式会社コンベックス内
 e-mail : jsot2023@convex.co.jp

13. その他

50 回の記念の意を込め、J-stage 非掲載の第 1 回 (1975 年・昭和 50 年)～第 31 回 (2004 年・平成 16 年) までの学術年会要旨集の PDF 化をおこない、学術年会ホームページに掲げることを企画しております。また、事前参加登録者のみなさまにお届けする封筒色は、花緑青 (アセト亜ヒ酸銅) 色を意識した色を選んでおります。

2) お支払い方法

・クレジットカード

※決済等の詳細については、年会ホームページにて追ってご案内いたします。

10. 情報交換会 (予定)

次の通り、開催 2 日目に、対面での情報交換会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2023 年 6 月 20 日 (火) 18:30～

場所：パシフィコ横浜 会議センター近くのホテル内のホール (予定)

11. 展示・ランチョンセミナーなどの募集

展示、ランチョンセミナー、広告掲載を募集します。詳細については年会ホームページ「企業展示・広告等を希望される皆様へ」をご覧ください。

12. 年会事務局, 連絡事務局

年会事務局
 〒 210-9501 川崎市川崎区殿町 3-25-26
 国立医薬品食品衛生研究所
 安全性生物試験研究センター・毒性部
 相崎健一, 小野竜一, 栗形麻樹子, 高橋祐次
 e-mail : secretariat@jsot2023.jp
 50 回記念担当:
 務台 衛 ((株) LSIM 安全科学研究所)

2023年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年會にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去5年間に日本毒性学会学術年會で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2022年12月31日（土）

2023年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格：日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格：日本毒性学会理事。

表彰：授賞者数は毎年, 最大1名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：理事1名の推薦を必要とする。推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2022年12月31日（土）

2023年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞（国際貢献賞）の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、主催、発表等

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2022年12月31日（土）

2023年度日本毒性学会 学会貢献賞 候補者推薦要領

本会における学会活動の貢献に敬意を表し、日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に授与する。

候補者の資格：現に20年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会貢献賞の対象となる業績目録：学会の活動に貢献した具体的な業績

推薦書類の送付先：jsotHQ@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2022年12月31日（土）

2023年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2022年12月31日（土）

第49回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第49回日本毒性学会学術年会の要旨集（CD-R）を1枚3,500円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第32回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500円（1枚）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等） ③電話番号
④第49回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

その他のお知らせ

第39回日本毒性病理学会総会及び学術集会

日本毒性病理学会は、毒性病理学の進化や発展を目的として設立され、これまでに多くの研究成果を生み出し、学術的にも社会的にも貢献して参りました。近年では、新規モダリティに対応した病理評価法の開発のみならず、イメージングや空間的遺伝子発現解析技術を取り入れた毒性作用機序の解明やゲノム編集技術を利用したヒト外挿性向上への挑戦など、新たな領域での発展が期待されております。本学術集会におきましては、「毒性病理学の挑戦 - 伝統の継承と次代を見据える技術革新 -」をテーマとして掲げ、長年培われてきた毒性病理学の伝統の継承に関する取り組みと共に、これからの毒性病理学を担うことが期待される新技術や、伝統を踏まえて進化するリスク評価の取り組みなどを紹介し、創造性のある学術分野への発展に貢献することを目指しております。

本学術集会におきましては、学会員に日ごろの研究成果を積極的に発表していただき、様々な研究者との垣根を越えた活発な意見交換の場を提供できることを願っております。協賛学会会員の皆様におかれましても積極的なご参加を心よりお待ちしております。

会 期 2023年(令和5年) 1月25日(水)、26日(木)
会 場 タワーホール船堀の現地とWEB配信のハイブリッド開催
年 会 長 渋谷 淳(東京農工大学大学院 農学研究院)
テ ー マ 毒性病理学の挑戦 - 伝統の継承と次代を見据える技術革新 -

主催機関 一般社団法人 日本毒性病理学会

学術集会HP <https://cfmeeting.com/jstp39/>

プログラム内容(予定)

特別講演(2題)、基調講演(2題)、シンポジウム、IATP Maronpot Guest Lecture、パネルディスカッション(2セッション)、若手ワークショップ(2セッション)、一般演題(ポスター)、ランチョンセミナー、イブニングセミナー

一般演題募集

2022年9月1日(木) 14:00 ~ 10月21日(金) 16:00

事前参加登録

2022年9月1日(木) 14:00 ~ 12月9日(金) 17:00

協賛学会会員の参加登録費

事前登録	11,000円(税込)
当日受付	13,200円(税込)

学会事務局

東京農工大学農学部・共同獣医学科 獣医病理学研究室(担当:植野)
事務局長:村上智亮(獣医毒性学研究室)
〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8
Tel: 042-367-5771 Fax: 042-367-5771
E-mail: jstp2023@gmail.com

運営事務局

株式会社コンベンションアシスト(担当:大川)
〒352-0011 埼玉県新座市野火止7-8-31
Tel: 048-400-2790(携帯) 080-3206-2671
E-mail: jstp39@cfmeeting.com

毒性学ニュース索引 (47 卷)

毒性学ニュース索引 (47 巻)

日本毒性学会からのお知らせ

第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 4 報)	No. 1	1
第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)	No. 2	15
第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報)	No. 3	35
第 50 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報)	No. 4	43
第 50 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 2 報)	No. 5	92
第 50 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 3 報)	No. 6	109
第 49 回日本毒性学会学術年会報告	No. 5	89
第 48 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 1	8 / No. 2 21 / No. 3 38
第 49 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 5	91 / No. 6 119
第 25 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	No. 3	29
第 24 回日本毒性学会認定トキシコロジスト新規認定者	No. 1	7
2022 年度一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会報告	No. 5	57
2022 年度年会費の納入のお願い	No. 2	13 / No. 3 25
2022 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	No. 4	45 / No. 5 95 / No. 6 115
2022 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	No. 4	47 / No. 5 97 / No. 6 117
2022 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	No. 4	44 / No. 5 94 / No. 6 114
2022 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	No. 4	48 / No. 5 98 / No. 6 118
2022 年度日本毒性学会佐藤哲男賞 (国際貢献賞) 候補者推薦要領	No. 4	46 / No. 5 96 / No. 6 116
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 1 報)	No. 1	5
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 2 報)	No. 2	19
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 3 報)	No. 3	27
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 4 報)	No. 4	42
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 5 報)	No. 5	99
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 6 報)	No. 6	107
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	No. 3	31
認定試験受験資格のための評点表	No. 3	33
2022 年～2024 年日本毒性学会理事監事および各種委員会委員長について	No. 5	56
社員総会開催のご案内と出欠票 (委任状) 提出のお願い	No. 1	9 / No. 2 14 / No. 3 26
理事長就任のご挨拶	No. 4	39
新理事会に望むもの	No. 4	40
米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募	No. 5	100
「Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」—はじめての国際学会を経験して—	No. 4	49
第 61 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告—Counting Education Courses に参加して—	No. 4	50
2022 年度学会賞・学会貢献賞・奨励賞・技術賞受賞者一覧	No. 5	59
「学会賞を受賞して」鰐淵 英機	No. 5	78
「奨励賞を受賞して」大黒 亜美	No. 5	79
「奨励賞を受賞して」志津 怜太	No. 5	79
「奨励賞を受賞して」山岸 由和	No. 5	80
「学会貢献賞を受賞して」青木 豊彦	No. 5	80
「田邊賞を受賞して」大塚 まき	No. 5	81
「田邊賞を受賞して」吉成 浩一	No. 5	81
「田邊賞を受賞して」辻 嘉代子	No. 5	82
「ファイザー賞を受賞して」安部賀央里	No. 5	82
「ファイザー賞を受賞して」原 崇人	No. 5	83
「ファイザー賞を受賞して」藤江 智也	No. 5	83
「ファイザー賞を受賞して」藤代 瞳	No. 5	84
「技術賞を受賞して」原田 幸祐	No. 5	84
「技術賞を受賞して」柳田 翔太	No. 5	85
日本毒性学会名誉会員高橋道人先生のご逝去を悼む	No. 5	53
黒川雄二先生追悼文	No. 6	103
日本毒性学会名誉会員佐藤哲男先生特別寄稿「学会の世代交代を考える—私見—」	No. 5	86

その他のお知らせ

株式会社新日本科学 試験従事者募集	No. 1	10
田辺三菱製薬株式会社 非臨床安全性研究員募集	No. 1	11
株式会社新日本科学 試験従事者募集	No. 2	22
構造活性フォーラム 2022	No. 2	23
ISM-8 会告	No. 2	23
国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 変異遺伝部第三室長募集	No. 4	51
アジア毒性学会 (ASIATOX)	No. 5	102
日本動物実験代替法学会第 35 回大会	No. 5	102
第 39 回日本毒性病理学会総会及び学術集会	No. 5	102 / No. 6 120

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

2022年9月2日付で「研究倫理要綱」と「研究倫理問題に関する規程」が新たに制定されました。学会ホームページでご確認をお願いします。

一般社団法人日本毒性学会 定款

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針

一般社団法人日本毒性学会 入会規程

一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程

一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程

一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程

一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程

一般社団法人 日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

高い再現性と信頼性で短期発がん性試験を実現したモデルマウス

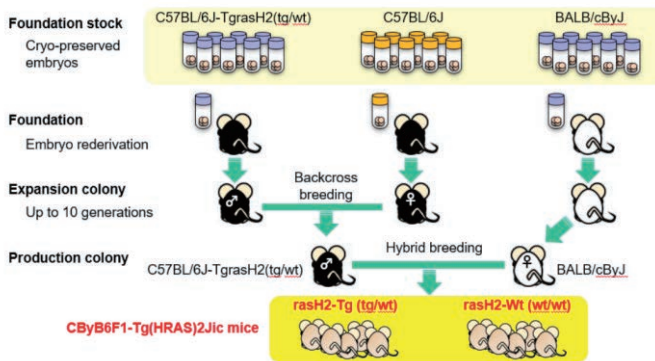
rasH2マウス



rasH2マウスは（公財）実験動物中央研究所（実中研）、東海大学医学部、国立がんセンター研究所（当時）との共同研究により開発されました（Saitoh A. et al., Oncogene. 1990）。その後1993年に実中研で発がん性評価試験の実用化を開始、1997年から2001年の5年間に於ける日米欧の産官学50施設の国際共同研究 (ILSI/HESI)によってrasH2マウスの高いがん性評価の再現性、安定性が証明されました。当社では、2001年より本格的生産・供給をしております。2022年現在、遺伝子改変マウスによる短期発がん性試験のスタンダードモデルとして認知され、世界各国で利用頂いております。

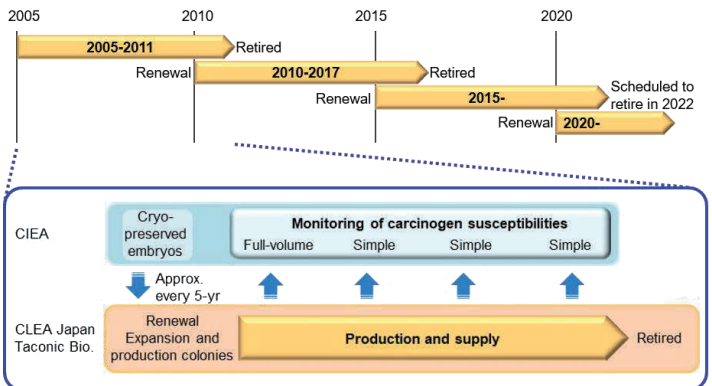
rasH2マウス：生産システム

◆ rasH2マウスの“発がん感受性”の永続的・安定的な維持と安定供給のためにデザインされた生産システム



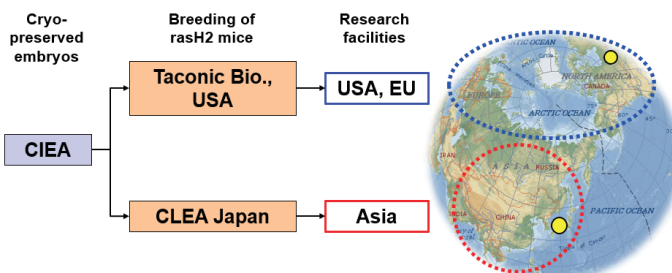
rasH2マウス：品質管理システム

◆ rasH2マウスの“発がん感受性”を確認・保証するためにデザインされた品質管理システム

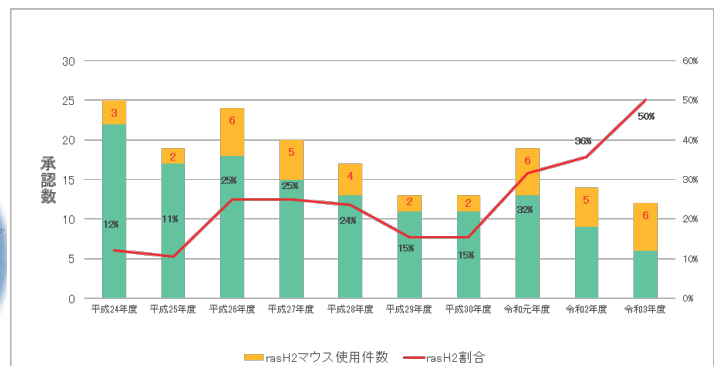


rasH2マウス：グローバルな安定供給体制

◆ 日本クレア、Taconic Biosciencesにて、定められ生産システムに基づきrasH2マウスを生産し、世界各国に供給しています



発がん性試験が実施された医薬品の承認状況



図：日本国内の過去10年間の発がん性試験推移 (PMDAのHPより独自調査)

受注センター 〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7
 東京 A D 部 〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7
 大阪 A D 部 〒564-0053 大阪府吹田市市江の木町6-5
 仙台出張所 〒983-0047 宮城県仙台市宮城野区高砂1-30-24
 札幌出張所 〒063-0849 北海道札幌市西区八軒9条西10-4-28
 名古屋出張所 〒465-0093 愛知県名古屋市中東区一社3-121-1 MIDORIビル101

TEL.03-5704-7123 FAX.03-3792-2368
 TEL.03-5704-7050 FAX.03-3792-2032
 TEL.06-4861-7101 FAX.06-4861-7108
 TEL.022-352-4417 FAX.022-352-4419
 TEL.011-631-2725 FAX.011-644-9209
 TEL.052-715-7580 FAX.052-715-7590



日本クレア株式会社

<http://www.CLEA-Japan.com>

医薬品開発のトータルサポート

探索試験

前臨床試験

臨床試験

申請対応

- 開発段階に応じた試験の実施 -

例： 非臨床探索、GLP、臨床開発（薬物濃度測定）

- ワンストップサービス -

毒性、薬物動態、薬効薬理、非臨床コンサルティング・メディカルライティング

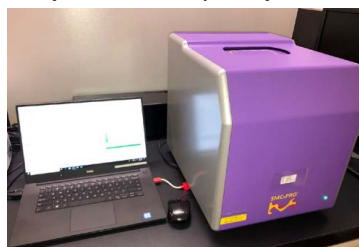
豊富な経験と実績

- 年間500試験を超えるバイオ医薬品の受託実績
- 各種バイオマーカーの測定と評価

LSRFortessa X-20
(BD Biosciences)



SMCxPRO
(Merck Millipore)



TRIPLE QUAD 7500
(AB SCIEX)



- AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）
在外子会社を含め全ての施設で完全認証を継続
- FDA IND/NDA電子化申請対応（CDISC SEND）



お問い合わせ先
株式会社新日本科学



ケー・エー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける 細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

HepaRG®・初代肝細胞



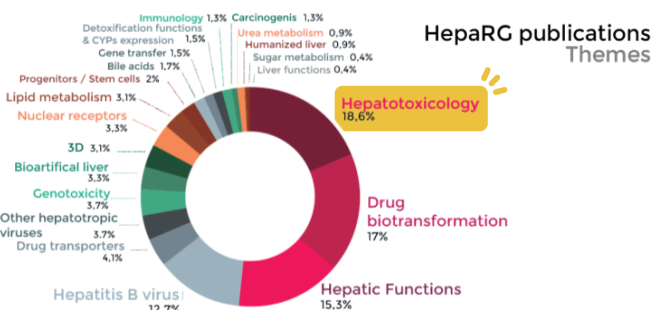
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

➤ HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！

- ✓ ミトコンドリア毒性の評価
- ✓ 反応性代謝物による肝毒性評価
- ✓ 炭水化物および脂質代謝評価
- ✓ 胆汁うっ滞の評価

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。

➤ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！



ECACC標準株細胞・核酸製品

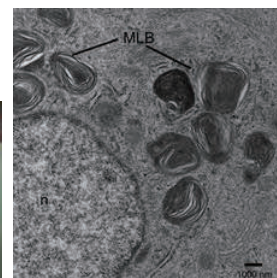
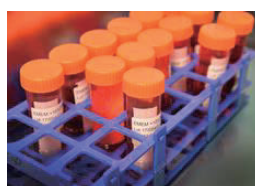


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

➤ メリット！

- ✓ スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ✓ プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ✓ 幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ✓ KACによる迅速な技術サポート体制



肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

➤ 試験例

- ✓ 代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ✓ 早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等



<https://www.saibou.jp/>



▶ これらの製品情報を細胞.jpでお調べ頂けます



株式会社 ケーエーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先

試薬事業部

TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	井村 伸正	佐藤 哲男	渡辺 民朗
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	永沼 章

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和市	姫野誠一郎	眞鍋 淳	安仁屋洋子
横井 毅	久田 茂		

[賛助会員]

(五十音順)

● **ダイヤモンド**
 (株)新日本科学

● **プラチナ**
 第一三共 (株) Charles River

● **ゴールド**

旭化成ファーマ (株)	あすか製薬 (株)
アステラス製薬 (株)	(株)安評センター
EA ファーマ (株)	(株)イナリサーチ
エーザイ (株)	(株)LSIM 安全科学研究所
大塚製薬 (株)	小野薬品工業 (株)
花王 (株)	一般財団法人化学物質評価研究機構
科研製薬 (株)	杏林製薬 (株)
協和キリン (株)	興和 (株)
三栄源エフ・エフ・アイ (株)	サントリーホールディングス (株)
(株)三和化学研究所	塩野義製薬 (株)
(株)資生堂	シミックファーマサイエンス (株)
住友ファーマ (株)	住友化学 (株)
(一財) 生物科学安全研究所	ゼリア新薬工業 (株)
千寿製薬 (株)	大正製薬 (株)
大鵬薬品工業 (株)	武田薬品工業 (株)
田辺三菱製薬 (株)	中外製薬 (株)
帝人ファーマ (株)	(株)DIMS 医科学研究所
トーアエイヨー (株)	東レ (株)
(一社) 日本化学工業協会	日本香料工業会
日本新薬 (株)	ファイザー (株)
富士フイルム (株)	扶桑薬品工業 (株)
(株)ボゾリサーチセンター	Meiji Seika ファルマ (株)
持田製薬 (株)	(株)薬物安全性試験センター
ライオン (株)	

[役員] (2022 ~ 2023 年度)

理事長	務台 衛		
理事	朝倉 省二	安西 尚彦	上原 孝
	小椋 康光	鍛冶 利幸	菅野 純
	古武弥一郎	児玉 晃孝	佐藤 雅彦
	渋谷 淳	高橋 祐次	奈良岡 準
	広瀬 明彦	黄 基旭	福島 民雄
	宮内 慎	宮脇 出	森 和彦
	山本 千夏		
監事	天野 幸紀	三浦 伸彦	

[学術年会長]

第49回 (2022年) 石塚真由美
 第50回 (2023年) 北嶋 聡
 第51回 (2024年) 上原 孝
 第52回 (2025年) 黄 基旭

[委員会] (2022 ~ 2023 年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

● **理事長** 務台 衛

● **総務委員会** 委員長 小椋 康光
 ◆ **連携小委員会** 委員長 上原 孝
 ◆ **評議員選考小委員会** 委員長 佐藤 雅彦
 ◆ **名誉会員および功労会員選考委員会** 委員長 小椋 康光
 ◆ **指針値検討小委員会** 委員長 広瀬 明彦
 ◆ **企画戦略小委員会** 委員長 宮脇 出

● **財務委員会** 委員長 森 和彦

● **編集委員会** 委員長 鍛冶 利幸
 副委員長 古武弥一郎
 副委員長 藤原 泰之
 ◆ **JTS 編集委員会** 委員長 鍛冶 利幸
 副委員長 古武弥一郎
 副委員長 藤原 泰之
 ◆ **FTS 編集委員会** 委員長 永沼 章
 ◆ **Executive Editor 小委員会** 委員長 永沼 章
 ◆ **田邊賞選考小委員会** 委員長 宮脇 出
 毒性学ニュース機能強化 WG WG 長 古武弥一郎

● **教育委員会** 委員長 高橋 祐次
 (小委員会・委員は10月末で交代)
 ◆ **生涯教育小委員会** 委員長 黄 基旭
 ◆ **基礎講習会小委員会** 委員長 橋本 清弘
 ◆ **認定試験小委員会** 委員長 福島 民雄
 トキシコロジー 4ed. 編集 WG WG 長 鈴木 睦

● **学術広報委員会** 委員長 児玉 晃孝
 ◆ **学会賞等選考小委員会** 委員長 上野 光一
 ◆ **佐藤哲男賞・学会貢献賞選考小委員会** 委員長 姫野誠一郎
 ◆ **特別賞等選考小委員会** 委員長 上野 光一
 ◆ **技術賞選考小委員会** 委員長 三島 雅之
 ◆ **日化協 LRI 賞選考小委員会** 委員長 渋谷 淳
 ◆ **学術小委員会** 委員長 吉成 浩一
 ◆ **広報小委員会・HP 担当** 委員長 児玉 晃孝
 副委員長 宮内 慎
 ◆ **トピックス小委員会** 委員長 中西 剛

その他関連の委員会

○ **IUTOX 担当** Executive Committee, Director 広瀬 明彦

○ **ASIATOX 担当** ASIATOX Councilor 田口 恵子

○ **SOT 担当** 熊谷 嘉人

○ **日本学術会議担当** 委員 石塚真由美

2022年12月1日 印刷

2022年12月1日 発行

発行人 務台 衛

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsothq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161